

平成30年度 公益財団法人 和歌山県栽培漁業協会事業計画

1 基本方針

本県地先海域における水産資源の維持増大を図るため、有用魚介類の種苗生産等を行い、放流等により栽培漁業を推進し、もって沿岸漁業の生産の向上に努める。

2 事業計画

(1) 種苗生産等事業

県の委託を受け放流等に供するため、次のとおり種苗生産等を行う。

種類	計画数量	技術開発計画
マダイ	320千尾(30mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質卵の確保を図るとともに、一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。
ヒラメ	420千尾(30mm)	(種苗生産) 一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗をより安定的に生産する技術の確立を目指す。 (中間育成) 安定的に生産する技術の確立を目指す。
イサキ	420千尾(20mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質卵の確保を図るとともに、一層の生産コストの軽減を図りながら、活力のある種苗を安定的に生産する技術の確立を目指す。
クエ	50千尾(40mm)	(種苗生産) 形態異常魚の発現防止に努めるとともに、夜間の沈降死を防止する技術の確立を目指す。 (中間育成) より安定的に生産する技術の確立を目指す。
カサゴ	100千尾(20mm)	(種苗生産) 天然魚から健全な親魚を養成し、良質な仔魚の確保を図るとともに、餌料系列、給餌方法を再検討し、安定的に生産する技術の確立を目指す。 (中間育成) 安定的に生産する技術の確立を目指す。
アワビ類	350千個(25mm)	(種苗生産・中間育成) ・クロアワビ、メガイアワビ、トコブシ 天然貝から健全な親貝を養成し、良質卵の確保を図るとともに、付着珪藻の維持管理、配合飼料、塩蔵ワカメの給餌方法を再検討し、活力のある種苗をより安定して生産する技術の確立を目指す。 ・トコブシ 成長を促進させるため、早期採卵技術及び高水温期の安定した飼育技術の確立を目指す。

※ センター別生産計画

単位:千尾・千個

	マダイ	ヒラメ	イサキ	カサゴ	クエ	アワビ類
北部センター	320		420			250
南部センター		420		100	50	100
計	320	420	420	100	50	350

(2) 栽培漁業総合推進事業

広域種の効率的・効果的な栽培漁業を推進するため、広域種資源造成型栽培漁業推進検討会に出席する。また、瀬戸内海海域栽培漁業推進協議会で実施する、サワラ共同種苗生産・中間育成・放流事業に提供するため、冷凍ワムシ50億個体及びマダイ冷凍孵化仔魚1,000万尾を作製する。

(3) 放流効果調査事業

(クエ)

標識放流したクエ（平成23・24年度に腹鰭抜去、平成27年度にダートタグ装着）について放流効果を検証していく。

(4) 普及啓発事業

一般県民に栽培漁業への理解を深めてもらう一環として、小学生を対象に体験放流や中学生の職場体験学習等の受入を行う。